

☆道路行政セミナー 1月号 NO.004

★☆ポイント☆☆

◆◆◆年頭の挨拶◆◆◆

国土交通省 道路局 金井道夫局長

◆◆◆特集記事◆◆◆

●LRT とまちづくり ー路面電車からLRTへー (国土交通省 都市・地域整備局 街路交通施設)

路面電車は、利便性に優れ、環境にもやさしい交通手段である。モータリゼーションの進展により一時衰退したが、平成9年に低床車両が導入された頃から見直され、平成18年に我が国で初めて富山ライトレールが本格的なLRTとして整備された。

新しい時代の路面電車であるLRTの整備がまちづくりと一体となって進められ、生き生きとした魅力あるまちづくりへの取り組みが日本各地で始まっている。

●第9回全国路面電車サミット2008福井大会について

全国路面電車サミット2008福井大会実行委員会事務局
NPO法人ふくい路面電車とまちづくりの会 (ROBA))

08年10月に開催された第9回全国路面電車サミット2008福井大会においては、路面電車だけでなく地域鉄道をLRTの素材としてとらえ、「ひと・まち・環境をつなぐLRT」をテーマにした。そして、それぞれの地域において路面電車が担う新たな役割を明確にし、LRTへ進化させることが重要であるとの認識を深めた。

◆◆◆道路占用Q & A◆◆◆ (国土交通省道路局路政課道路利用調整室)

高速道路のインターチェンジの案内標識等、他の道路の道路管理者が道路上に物件等を設置する場合がある。その際の取扱いについて解説する。

◆◆◆TOPICS◆◆◆ (首都高速道路(株)保全・交通部 交通安全対策グループ)

首都高速5号池袋線タンクローリー火災事故における交通誘導及び安全対策

首都高速5号池袋線下り熊野町JCTでのタンクローリー横転火災事故は、首都高速で東京と埼玉を結ぶ2つのルートのうち的一方が寸断されたため、首都高速及び周辺の一般道路に激しい渋滞が発生し社会的に大きな影響を及ぼした。

このような事故が二度と起こらないようにするため、これまで以上にハードとソフトの両

面から安全対策を推進し、再発防止に努めなければならない。また、中央環状線などの道路ネットワーク整備や、今回事故があった板橋熊野町 JCT などにおけるボトルネックの改良も進める必要がある。

◆◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆◆

●自然環境に配慮した道路事業の紹介

～「飛べない鳥」を輪禍から救え！～（内閣府 沖縄総合事務局 北部国道事務所）
沖縄本島北部地域はヤンバルクイナなど絶滅が危惧される小動物が生息している地域であり、道路事業の実施にあたっては自然との共存が求められています。
道路上での事故「ロードキル」は大きな課題のひとつであり、北部国道事務所で取り組んでいるヤンバルクイナへのロードキル対策の事例を紹介します。

●三重県の道路情報管理システム導入について

（三重県県土整備部維持管理室道路維持グループ）

三重県では、道路規制情報を単にホームページで公開するだけでなく、異常気象時の通行止めに必要な雨量情報と、道路情報板の制御、そして関係機関（県庁内、国土交通省、日本道路交通情報センター）への情報伝達までの一連の業務を包括させた「三重県道路情報管理システム」の構築を図りました。

●三重県の住民参加型の維持管理について

（三重県県土整備部維持管理室道路維持グループ）

三重県では、平成 19 年度に組織改正を行い、道路、河川・砂防、港湾・海岸の管理担当と施設維持担当を統合させた「維持管理室」を新設しました。そこで、各施設を横断的に実施している住民参加型の草刈り・清掃・植栽等の維持管理について説明します。

◆◆◆お知らせ◆◆◆

平成 21 年度「道路ふれあい月間」推進標語を募集します！

（道路局道路交通管理課）

国土交通省では、毎年 8 月を「道路ふれあい月間」として、道路の正しい利用や道路愛護活動の推進に努めていますが、この一環として、平成 21 年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集します。

☆編集後記（1月号）☆

いよいよ2009年がスタートいたしました。本年も皆様のご期待に添えるよう努力してまいります。どうぞ宜しくご指導の程お願い申し上げます。

さて、この年末年始はゆっくりと過ごす事ができた方も多かったのではないのでしょうか。多くの方が帰省をする東京では、街全体が閑散としてしまいます。その様子はゴーストタウンのようで、普段は混雑する街に苛立ちを感じるはずが、この時ばかりは少し寂しさや怖さを感じてしまうことも……。

それでも、年が明けて仕事が始まると、友人から頂くお土産がひとつの楽しみとなっています。いつも羨ましく思うのは、自分の故郷で作られている特産物があること……。東京出身の私にとってこれは本当に羨ましく素晴らしいことだと思っています。

もちろん東京の特産物もたくさんあると思います。それでも、「手土産に何か特色のあるものないかな」と聞かれると……となってしまったりもしばしば。そこで、今回は築地の隣街「銀座」でのある取り組みに注目してみたいと思います。

様々な変化をし続ける街～東京～。便利になっていく事と引き換えに最近ではそれぞれの街の特色が失われつつあるような気がします。そんな中でも、～らしさ～を残していこう、都会と自然の共生を～考えよう～という様々な取り組みが行われています。その中の1つに「銀座みつばちプロジェクト」があります。

銀座3丁目にある「紙パルプ会館」屋上で「みつばち」を飼育し、都会のど真ん中で「みつばち」が運んでくる“自然のめぐみ”を通じて歴史と伝統のある銀座ならではの様々なアイデアを考え新しい価値を創造するというものです。

では一体「みつばち」達はどこで蜜を集めているのでしょうか。皆さんが持つ銀座のイメージは……都会・とにかく人が多い・排気ガス・ビルばかり……いえいえあるんです緑が。

「みつばち」達は、主に築地の聖路加病院の屋上緑地、浜離宮の菜の花、皇居周辺のソメイヨシノなどから蜜を取っています。都会のオアシスから採集した蜂蜜を使って、カステラやケーキ・カクテルなどを作っています。

銀座で採れた蜜を使い銀座でしか味わえないものを作る。これぞ、東京の特産物として胸を張って言えるのではないのでしょうか。この素晴らしい取り組みがずっと続いていくことを願っています。

皆さんも銀座でしか味わえないこの「みつばちの贈り物」を是非味わってみませんか。(K)